

# 聖霊とわたしたちは

---

シリーズ～続 福音の力～

2021/8/22



# 使徒言行録15章1～31節

ある人々がユダヤから下って来て、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と兄弟たちに教えていた。それで、パウロやバルナバとその人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた。この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。…エルサレムに到着すると、彼らは教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎され、神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した。ところが、ファリサイ派から信者になった人が数名立って、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言った。

そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。「兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです。人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです。また、彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった轡を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」

すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。二人が話を終えると、ヤコブが答えた。「兄弟たち、聞いてください。神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなさった次第については、シメオンが話してくれました。預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。『「その後、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。その破壊された所を建て直して、元どおりにする。それは、人々のうちの残った者や、わたしの名で呼ばれる異邦人が皆、主を求めようになるためだ。」昔から知らされていたことを行う主は、こう言われる。』

それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。モーセの律法は、昔からどの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。

「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。聞くところによると、わたしたちのうちのある者がそちらへ行き、わたしたちから何の指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ動揺させたとのことです。…聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。」さて、彼ら一同は見送りを受けて出発し、アンティオキアに到着すると、信者全体を集めて手紙を手渡した。彼らはそれを読み、励ましに満ちた決定を知って喜んだ。

# 初代教会に起こった混乱

- 最初の宣教旅行から戻ったパウロ
  - 「到着するとすぐ教会の人々を集めて、神が自分たちと共にいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。」14:27
- ユダヤからもたらされた教え
  - 「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがた(異邦人)は救われない」
- 意見の対立➢エルサレムで決着しよう！
  - 「激しい意見の対立と論争が生じた。**この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。**」

# エルサレム会議開催

## ➤ エルサレム到着

- 「エルサレムに到着すると、…神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した」

## ➤ ファリサイ派から信者になった者たち

- 「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」

## ➤ 議論が重ねられる

- 「そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。議論を重ねた後…」

教会初の公式の話し合い(公会議)



# ペトロの発言

- 異邦人にも聖霊が与えられた
  - 「神は、わたしたちに与えてくださったように**異邦人にも聖霊を与えて**、彼らをも受け入れられたことを証明なさった」<コルネリウスの家(10章)
- 私たちが救われるのは恵みによる
  - 「わたしたちは、**主イエスの恵みによって救われる**と信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」<律法を守ることによってではない！
- 異邦人たちに律法の轡を負わせるな！
  - 「**先祖もわたしたちも負いきれなかった轡を**、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。」

# バルナバとパウロの証言

## ➤ 第一次宣教旅行のレポート

- 「すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。」

# ヤコブの発言

## ➤ イエス様の兄弟ヤコブ

- エルサレム教会の長老であった・ヤコブ書の著者

## ➤ 旧約聖書の預言を引用

- 「その後、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。その破壊された所を建て直して、元どおりにする。それは、人々のうちの残った者や、**わたしの名で呼ばれる異邦人が皆、主を求めるようになるためだ。**」<アモス書9:11-12
- 「ダビデの幕屋」の再建＝教会の誕生
- 「異邦人」は七十人訳による(ヘブライ語では「すべての国」)

# ヤコブの発言

## ➤ イエス様の兄弟ヤコブ

- エルサレム教会の長老であった・ヤコブ書の著者

## ➤ 旧約聖書の預言を引用

- 「その後、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕

教会は再建されたイスラエルの  
国であり、この国では異邦人も  
主なる神を礼拝するようになる  
と旧約聖書に約束されていた！

- 「ダ
- 「異邦人」は七十人訳による(ヘブライ語では「すべての国」)

# エルサレム会議の結論

- 異邦人に律法を守らせる必要はない
  - 「神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。」
  - この結論のお陰で私たちは助かっている！
- 気をつけるべき事柄
  - 「ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。」
  - これらは救われるための条件ではないが、クリスチャンとして最低限守るべき事柄として付記される

# 公式通達

- アンティオキア教会へ代表を派遣
  - 「バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たち」
- 公式の書簡
  - 「**聖霊とわたしたちは**、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。」
  - 聖霊の働き＋人間の知恵が導き出した結論である
- 報告を喜んだアンティオキア教会
  - 「彼らはそれを読み、**励ましに満ちた決定**を知って喜んだ。」

# これらの事から学ぶこと

- 教会には様々な問題が起こる
  - 人間の集まりなので仕方がない
- それらを解決するためには
  - 集まって議論する
  - これまでの事実を検証する
  - 聖書の言葉を土台として解決策を探る
- 神と人間の共同作業
  - 「聖霊とわたしたちは～決めました」と確信を持って言えるかどうか
- 自分の利益ではなく多くの人の徳をたてる
  - 「励ましに満ちた決定」であるか否か

# これらの事から学ぶこと

- 教会には様々な問題が起こる
  - 人間の集まりなので仕方がない
- それらを解決するためには
  - 集まって**議論**する
  - これまでの**事実**を検証する
  - **聖書の言葉**を土台として解決策を探る
- 神と人間の共同作業
  - 「**聖霊とわたしたちは**～決めました」と確  
持って言えるかどうか
- 自分の利益ではなく多くの人の徳を
  - 「**励ましに満ちた決定**」であるか否か

神の御心であるかどうかを  
判断するための方法